



インフルエンザ予防接種について

★免疫と予防接種のしくみ★

人間の体には、ウイルスに感染すると、そのウイルスを排除する働きをもった物質（抗体）を作り、次に同じウイルスが入ってきてもその感染症になりにくくする「免疫」という働きがあります。この働きを利用するのが予防接種です。病原性をなくしたり弱めたりしたワクチンを体内に入れることにより、その病気にかかりにくくします。



★インフルエンザ予防接種の効果★

＜発症を抑える＞

インフルエンザにかかるときは、インフルエンザウイルスが口や鼻から体内に入ることから始まります。体の中に入ったウイルスは、次に、細胞に侵入して増殖します。この状態を「感染」と言いますが、インフルエンザワクチンには、これを完全に防ぐ働きはありません。

体内でウイルスが増えると、1～2日の潜伏期間の後、発熱やのどの痛みなどのインフルエンザの症状が起こります。これを「発症」と言います。インフルエンザワクチンには、この「発症」をある程度抑える効果があります。

＜重症化を防ぐ＞

インフルエンザを発症した後、多くの人は1週間程度で回復しますが、中には、肺炎や脳症などの重い合併症が現れ、入院治療が必要になったり死亡したりする人もいます。これを、インフルエンザの「重症化」と言います。インフルエンザワクチンには、発症した場合に発熱などの症状を軽くしたり、「重症化」を予防したりする効果があります。

※ インフルエンザの予防接種は、受けたから絶対にインフルエンザにかからない（発症しない）というものではありません。予防接種を受けた人も、油断せず、手洗い、うがい、栄養、睡眠などの、基本的な感染症予防のための生活習慣を心掛けましょう。また、部屋の湿度を保ったり定期的に換気したりして、感染が広がらないようにしましょう。



★予防接種の時期★

インフルエンザワクチンは、予防接種を受けてから効果が表れるまでに2週間程度かかります。そして、その効果は、3～5か月持続すると言われています。インフルエンザが流行するのは、毎年12月下旬から3月にかけてですが、本校では、すでにインフルエンザを発症する人が増えてきています。できるだけ早く予防接種を済ませるようにしましょう。

★予防接種によってインフルエンザを発症することはある？★

インフルエンザワクチンは不活化ワクチンです。不活化ワクチンは、インフルエンザウイルスの活性を失わせ、免疫を作るのに必要な成分を取り出して病原性をなくして作られます。したがって、ウイルスとしての働きはないので、ワクチンの接種によってインフルエンザを発症することはありません。